

世界の人びとのための J I C A 基金・業務完了報告書

1、事業の概要	
(1) 事業名	「自立した学校給食の継続」を目的とする農産物生産支援事業
(2) 実施団体名	ハイチの会
(3) 実施期間	2017年5月1日から2018年1月31日
(4) 実施国	ハイチ共和国
(5) 活動地域	中央県エンシュ市 ボナビ村
(6) 活動概要	
<p>① 活動の背景</p> <p>政情不安や 2010 年の大地震、毎年襲うハリケーン被害等により食糧の自給率は 50%以下で国民の半数は慢性的な栄養失調です。当該地区は特に貧困家庭が多く 2007 年に支援で設立した学校の児童も低体重児が多く学校給食で命をつなぐ子も多く居ます。学校給食経費を設立時から支援していますが、支援に頼らずに食材を学校農園で生産し、自立を促すことが重要なので当事業を行いました。</p> <p>2002 年から KFP 『住民家族共同体』を設立し、今日まで命を守る目的で自給自足を目標の農業支援と、教育支援として当該地区では初めての教育施設の学校建設と維持を行う活動をしています。1日1食を得ることさえ難しい地域で、学校給食を自力で持続させるには、農産物の生産を向上させなければなりません。</p> <p>ハイチ人が元来食糧としていたトウモロコシやキャッサバを主にした農業を行い食糧の自給を図り、更に比較的飼育の簡単な鶏やヤギ、既に畜産指導をしたウシを当事業で購入して頭数を増やし、畜産による蛋白質の補充を図りました。</p>	
<p>② 活動の目標</p> <p>当会の活動は『農業で今日のいのちを守り、教育で明日のハイチを創る』ことです。食糧の安全保障として学校給食を行い、貧しい地域住民の命を守りたいと考えています。</p> <p>現実には、学校給食の食材の殆どを購入していて農園からの収穫量では少な過ぎて賄えません。食材の自給を図るには、先ず元になる種や苗を購入しなければ生産量も向上しません。</p> <p>目標は、当事業で、種、苗、鶏、ウシ、ヤギを購入し、食糧、自立した学校給食の自給率を上げることです。</p> <p>初年度は食材の1割を、2年目には2割を、3年目には3割を自給できるようにしたい。生産物を全て消費してしまわずに、次年度の種、苗にする農業計画を指導します。</p> <p>主食となるコメの生産が出来る事が望ましく、現実にネリカ米実施も試みましたが環境的、技術的にコメ生産は難しいので、生産物の量を増やしてコメや他の必要な食材と交換するなどの工夫を致します。当会も現地 K F P と共に情報提供や人材育成他の努力を重ねて参ります。</p>	

2、事業実施結果

(1) 実施した内容

① 種、苗、ヤギ、ウシ等の購入

事業の目的「食糧の安全保障として貧しい地域住民の命を守ることを常に基本として事業を実施しました。

学校給食の食材の自給を図るために、元になる各種の種や苗、鶏、ウシ、ヤギを購入しました。

種や苗は、ハイチ人が元来食糧としていたトウモロコシやキャッサバ、コンゴ豆、好物のピーナツを主にしました。トウモロコシは砕いて焚きマイムレにし、キャッサバはカッサブと言うパンにします。コンゴ豆はご飯の中に炊き込んだり甘く煮つけたりまたソースにもします。ピーナツはキャッサバに混ぜて焼いたり練ってパンに付けたり食材としての用途は多種です。

収穫に至るまでの過程として当然のことながら、植え付ける畑を耕し、植付け用の穴を掘り、苗の1本1本を植付け、雑草を抜き、水をやり、肥料をやり、育てなければならず、多くの人々の協力と労働力が必要です。事業費の人件費分を J I C A 助成金ではなく自己負担分として、労賃を払いまた労賃だけではなく、お腹を空かせて作業に従事する人々に対して作業日には昼食を提供しました。当該地域では貧しい農民が多いため、労賃よりもむしろ食事の提供を受けることを目的として労働に参加する人々が多くいるからです。

畑を耕すための農機具類（シャベル、鍬、斧、一輪車、他）を購入しました。

簡単に農作物に水をやると言っても川も井戸も遠い為に、既に雨水を貯める貯水槽を作りましたが、畑まで届くホースが無く苦労していましたが、当事業で購入できました。

低体重の児童が多かったので学校給食に蛋白源が欲しく、鶏50羽、ハイチでは一般的なホロホロ鳥15組、ヤギ13頭、ウシ6頭を購入し、畜産物の餌を確保し、予防接種などの管理育成もしました。

② 農業指導の派遣

現地の団体は、2001年ハイチから農業指導者を招致しアジア学院で修学する支援をしました。帰国後2002年に貧困地域で、当事業を担う K F P (kominote familyal peyizan) 『住民家族共同体』を設立しました。2004年に1日1食を得るための持続可能な農園を建設し、2007年に地域住民と子供たちの教育を目的として地域初の学校「ボンソペー小学校」を設立しました。当事業の学校給食を実施する学校です。

その後は、度々に農業指導員、保健衛生指導員、ソーラーパネル設置や井戸掘指導の技術者を派遣しています。当事業「自立した学校給食の継続を目的とする農産物生産支援事業」では農業指導員を派遣して、農作物の育成を促進しました。

(2) 実施成果

災害が多い国なので天候による不作や、泥棒の被害も日常茶飯事で、また収穫物保存設備が無いなどのことから、種や苗を一度に購入せずに数回に分けて購入したので、リスクが避けられました。

苦労していた灌水作業、農作物への水やりは、当事業でホースを購入できたことで、作物育成に大きな一歩前進ができました。

直ぐには収穫が出来ないオレンジ、ココヤシ、アボカド他の果実も大切に育てることで、数年後には学校給食の食材になり成果が期待できます。

また、派遣した農業指導員が学校の生徒にも苗木の植え方指導をしたので、生徒らは各家庭での農作業の手伝いにも活かされます。農業国ハイチでは、農民になる子どもが多く、特にこの地方では他の産業が無く将来

は農民になるので指導の成果が期待できます。

現に KFP の所有する農園に、当学校の卒業生が副責任者として就任して居るなど農園の継続が図られているので、当事業の成果も大いに期待ができます。

通常は農作業として、穴掘り、植付け、水やり、収穫などに参加した貧しい人々は、収穫物を自分たちの利益として収穫物の分配が習慣になっています。しかし、当事業での収穫物は、「子どもたちの学校給食の食材になる」ということ、農作業労働に参加することは子どもたちの育成に参加していることで、ひいては「地域の発展に寄与している」のだということ認識してもらい理解を得たことは大きな成果です。

(3) 得られた教訓など

ハイチでは鶏を購入する時期としては4月が最適だということは認識していましたが、当事業は5月から始まり1月に終わるので、暑さも一段落したことから、良い季節だと判断し10月末に鶏を購入しました。然しながら、購入時期が悪かったためなのか半数位が死滅してしまい、KFPも期待していた成果が得られなかったので落胆が大きかった。現場を任されていた飼育員らは、派遣した農業指導員に「与える飲み水の量が少なかったかもしれない。また出来れば消石灰での消毒が望ましい」との指導を受けて「今後の鶏の飼育は、より慎重にして、飲み水にも床の衛生状態にも注意する」という教訓を得ました。

現実には、死因は購入時期の問題なのか、「鳥インフルエンザ」他の病気なのか等の詳しい検査が出来る環境では無いのが、途上国ハイチの厳しい現実です。

学校にはソーラー発電の設置をしていますが治安が悪く指導員を学校に宿泊させることは危険なので、当事業ではKFP個人宅に宿泊しました。ハイチのこの地域の個人宅では、当然のことながら発電の設備も無くほとんどの時間が停電で、電気が通っていると言える状態ではなく、また当然にネット環境も無く、日本との交信は携帯電話のSMSだけに頼りました。今までもネット環境を整えることを望んでいたものの、現地KFPの能力では実現不可能と諦めていました。しかし当事業を実施しつつネット環境整備は、途上国でこそ情報を得る手段としては必至だとの教訓を得ました。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針

従来から「貧しくても支援を受け続けてはならない、支援をし続けてはならない」とKFP『住民家族共同体』も当会も認識しており、農産物の生産向上による自給自足と学校給食継続の自立を常に目指しています。

当会の活動を順次次世代に移行する努力をし、また現地のKFPや学校の運営（具体的な例としては教師給与や親の協力体制等のマネジメント）を再考し、激しく変化するハイチの社会情勢に対応べくフォローアップをしていきたいと考えています。

当事業が次年度、更に次々年度にどのように活かされて継続しているか、農作物が収穫出来ているか、ウシ、ヤギなどの畜産が学校給食に有効利用可能な状態に育成されているかなどを、メールでの交信や資金の送受だけの関係ではなく、諸般の専門家指導員を派遣して継続して支援をしていきます。お互いに顔と顔をつき合わせて現実に話をすることは大事なことで、そのためには川を歩いて渡り、ロバやオートバイで悪路を走り、何時間も掛けて山道を登り、ボナビに着いて、共に畑で働き、同じ食事を取り、電気の無い真っ暗な同じ屋根の下で寝てこそ、共に生きている仲間としての信頼が増します。

あと約10年で自立が出来るよう、共に努力したいと考えています。

キャッサバの苗を購入



オス ヤギ



メス ウシ



ウシにワクチン接種



ニワトリとホロホロ鳥



有刺鉄線・釘・南京錠



農機具の購入



給水管ホース



農作業家畜飼料（グアテマラ）の植付



農作業雑草引き



②農業指導の派遣

K F P 役員と佐藤耕士



農業指導・キャッサバ植付



キャッサバの植え付け指導



農園でオクラが育っている状況を確認する



ニワトリ小屋の床土の改良指導



校舎前で各学年の子どもたちと



学校給食調理施設

③学校給食

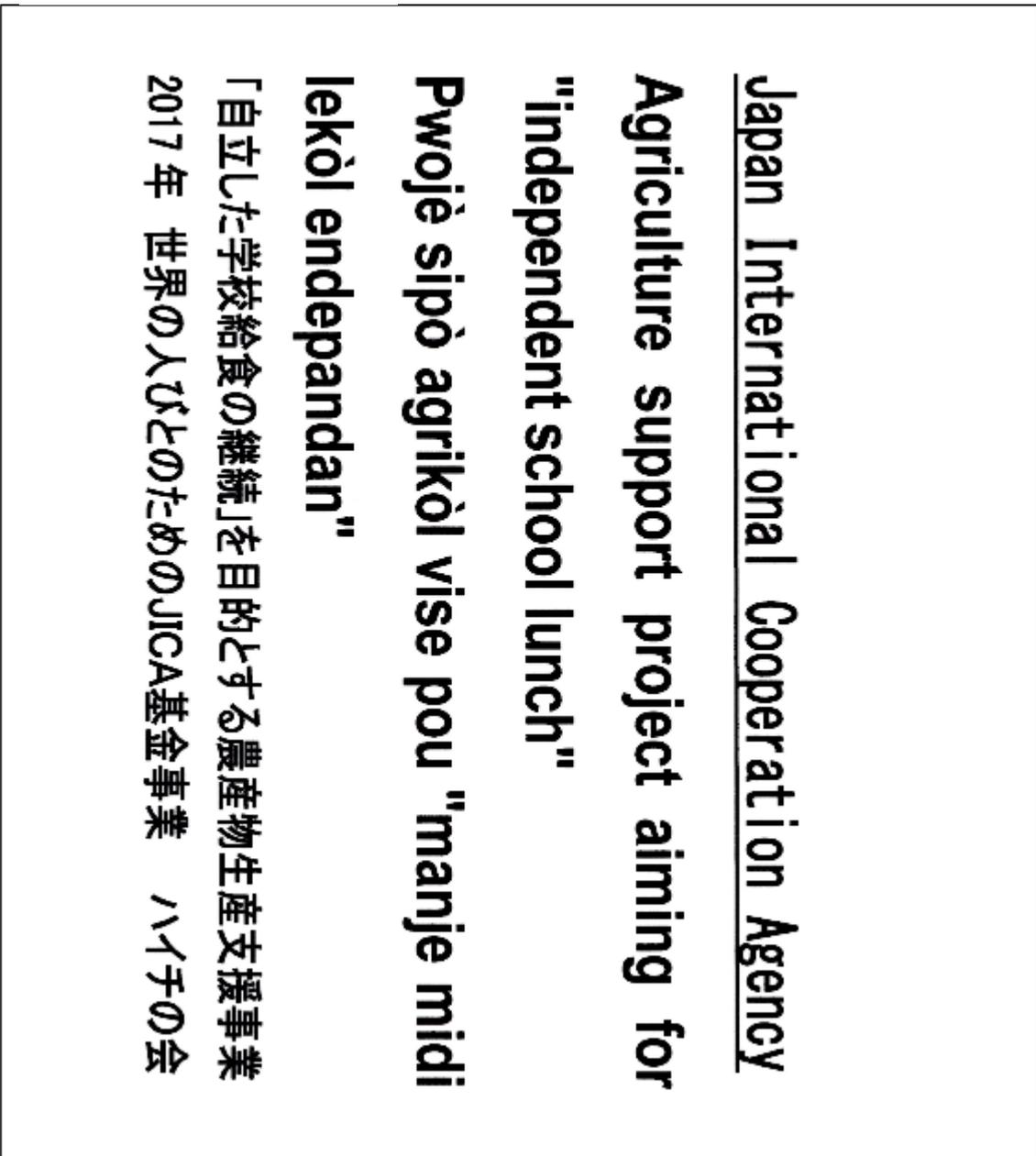
調理場室内



給食風景



④事業を表示した看板



以上